



内容

➤ 2013年11月にシンガポール、マレーシアで実施した現地調査から2つの研究型専門図書館のサービスを紹介

- ① シンガポール東南アジア研究所図書館 (ISEAS Library)
- ② 華社研究センター集賢図書館 (华社研究中心集贤图书馆)

2

①シンガポール東南アジア研究所図書館 (ISEAS Library)

➤ISEASとは？

- シンガポール教育部に所属する研究機関
- 東南アジアの政治、経済、社会、文化の研究
 - ASEAN Studies Centre
 - Nalanda-Sriwijaya Centreなどの研究ユニットに計30～40名の研究員が所属
- 講演会やシンポジウムの主催
- 学術書を中心とする出版事業

3

ISEAS Libraryの概要

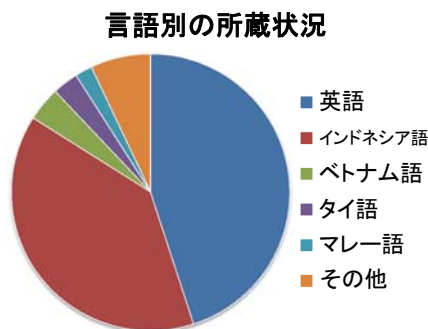
- ISEASの付属図書館
 - ISEAS所属研究員のための図書館として開設
- 博士課程以上の外部研究者もサービス対象
 - 修士以下の学生も利用可能、最近は学部生の利用も増えてきている
- 図書館スタッフは15名
 - 5名は図書館学修士課程以上の学位保持者
⇒主に高度な研究者支援サービスに従事
 - 10名はParaprofessional(専門職助手)
⇒主に資料整理やカウンター業務に従事

4

ISEAS Libraryの所蔵資料

- 東南アジアに関する資料を中心に60万件を所蔵

資料種別	概要
図書	社会科学分野が多く、特に統計資料が充実
雑誌	交換で入手したタイトルなど、各国の学術誌
新聞	東南アジア各国の新聞36タイトル
貴重資料	著名人の私文書コレクションや1930年代以前の古図書など



※“ISEAS Annual Report 2012/2013”
<http://www.iseas.edu.sg/iseas/upload/files/Annual%20Reports/arpt13.pdf>より作成

5

研究者支援サービス

(所内研究員専用)

- 研究員の学術活動をアーカイブ(基本的に非公開)
 - 研究員が学会参加など研究活動を行った際、論文集やレジュメなどの記録を整理・保存する
 - 研究員にとって文献整理の手間が省ける上、流通しにくい灰色文献の蓄積が可能になる
- 新着資料案内
 - 研究員の関心分野やリクエストを把握しておき資料が到着すれば通知
 - 資料リクエストの受付、同時に各分野の出版状況について情報も得る⇒互恵関係

6

研究者支援サービス

(条件付きで外部にも提供)

- **新聞記事ブリーフィングサービス**
⇒後述
- 文献リスト作成サービス
 - 依頼に応じ、特定テーマに関する文献リストを作成
 - 契約DB、冊子の目録、他機関のOPACなど、あらゆる手段を駆使して探す
 - 他機関からの取り寄せやコピー代行も相談可
 - 所外の研究者も有料で依頼可能

7

新聞記事ブリーフィング

- 所内研究員限定サービス
 - 図書館職員が各種言語の新聞に目を通し、東南アジアの政治、経済関係の重要ニュースをピックアップ、適宜翻訳してブリーフィング
 - 外部公開サービス
 - ニュースサイトなどウェブ上で読めるニュースのうち東南アジア関係で重要性が高いニュースをピックアップして概要を紹介(英語と中国語のみ)
 - 登録者には新着ニュースのアラートサービスを提供、また、過去に紹介したニュースのバックナンバーをウェブ上で一般公開
- ⇒ISEAS Library Selects -
 Daily News on the Southeast Asian Region
<http://www.iseas.edu.sg/databases.cfm>

8

資料保存とデジタル化

- 新聞バックナンバーのマイクロ化
 - 所蔵スペース逼迫のため、原紙は基本的に廃棄
 - ⇒ 研究図書館として合理的な考え方
- 私文書コレクションのデジタル化
 - プライバシー保護のため館内限定公開
- Singapore Memory Projectに参加
 - <http://www.singaporememory.sg/clusters>
 - 著作権に問題がない資料を提供
 - 現時点で提供点数は6件のみ
 - ⇒ 著作権処理とデジタル化の進捗を見ながら追加していく予定

9

②華社研究センター集賢図書館 (华社研究中心 集贤图书馆)

- 華社研究センターとは？
- マレーシア・クアラルンプールに位置する私立研究機関
- マレーシア華人*に関する研究の実施と支援
 - 専任の所属研究員は7名
- 雑誌『马来西亚华人研究学刊(マレーシア華人研究学刊)』などの学術文献を刊行
- 華人関係のシンポジウムや講演会の主催

*本報告では中国以外の地域に居住する中華系民族の意味で使用

10

集賢図書館

- 会員制の専門図書館
 - 華人研究者を中心とする有料会員向けにサービス
 - 非会員でも利用料を支払えば当日利用が可能
- 5名のスタッフが運営
 - うち2名が図書館学の知識を持つ上級図書館員
 - ⇒ 選書、資料整理、資料デジタル化作業の統括と難易度が高いレファレンスを担当
- 約38,000冊の華人関係資料を所蔵
 - 所蔵資料の80%が中国語資料
 - 華人に関する研究書、華人会館・学校の刊行物、中国語教科書コレクションなど
 - 分野別では社会科学分野の資料が多い

11

研究者支援サービスと連携

- 新聞記事切り抜き(剪報)コレクションの構築
⇒ 後述
- レファレンスサービス
 - 資料探しに慣れた専門知識を持つ利用者が多い
 - 他機関の所蔵調査も含め、特定資料の入手手段に関する問い合わせが多い
- 選書やデジタル化にはセンターの研究員と図書館職員が連携して取り組む
- 訪問研究者に資料を提供すると同時に寄贈資料を多く受ける⇒ 互恵関係

12

新聞記事切り抜きコレクション

- 集賢図書館の所蔵新聞(中・英・マレー語)
 - マレーシアの国内刊行紙を出来る限り網羅的に収集
- 職員が毎日全ての紙面に目を通し、
ほぼ全て*の主要記事を切り抜き保存
- 2,000以上に細分化された分類を付与して
分類ごとにファイリング
- 検索用データベース(館内限定利用)もあり
- 1985年の開始時から中断することなく継続、
すでに**150万件以上**もの記事を蓄積している
⇒他機関にはない貴重な情報源に

*華人関係の記事集積を目的としていたが、現在はほぼ全ての記事を集めている 13

資料デジタル化

- 2011年から新聞記事切り抜きコレクションの
デジタル化を実施
 - 資料の公開・保存の両立とスペース不足解消
- 職員2名が小型スキャナで少しずつ作業
- 館内でのみ利用提供を試行中
 - 今後2年以内を目途にシステムを構築し、
会員用のデジタルライブラリを提供するのが目標
- 教科書コレクションにも範囲を広げる予定

14

まとめ—東南アジアの事例にみる 研究者支援の工夫

- 限られた利用者に「狭く」「深い」サービス
- 研究者との**互惠関係**
 - 図書館は特別なサービスや資料を提供
⇔研究者は専門知識や寄贈資料を提供
- 新聞記事のアーカイブなど地道な努力
 - 貴重資料でなくても**世界唯一のコレクション**を
作れる
- デジタル化による利用促進と情報公開

15